

Changes in Physicians' Intrapersonal Empathy After a Communication Skills Training in Japan

山田, 祐

<https://hdl.handle.net/2324/4060261>

出版情報 : Kyushu University, 2019, 博士 (医学), 論文博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

(別紙様式2)

氏名	山田 祐
論文名	Changes in Physicians' Intrapersonal Empathy After a Communication Skills Training in Japan
論文調査委員	主査 九州大学 教授 馬場園 明 副査 九州大学 教授 大賀 正一 副査 九州大学 教授 新納 宏昭

論文審査の結果の要旨

申請者らは、日本のがん患者の意向に基づいたがん診療医のための独自のCST (Communication Skills Training 以下CSTと略)を開発し、ランダム化比較試験にて参加者の行動的共感が向上することを確認している。しかし、このCSTの介入後に、医師の個入内共感(感情的および認知的共感)が向上するか評価している研究はないため、コミュニケーション技術研修受講によって、医師の個入内共感が向上するかどうか調査することを目的とした。

3年以上がん医療での臨床経験を持つ日本全国の医師に対し、インターネットでの告知、または主催者が直接依頼することにより、2日間のCSTワークショップの参加者を募集した。その中で、2007年11月から2011年3月の間に開催されたワークショップに参加した医師を対象とした。ワークショップ前:T1、ワークショップ終了直後:T2、そしてワークショップ終了3ヶ月後:T3に、妥当性が検証された2つの共感を測定する自己記入式質問紙に回答を求め、質問紙の得点変化を解析することにより、医師の個入内共感が向上するかを調査した。

3か月の追跡調査を受けた507人の参加者のうち、383人が回答した(回答率:75.5%)。JSPE総得点、およびJSPE全下位尺度の得点は、T1の値と比べT2およびT3で有意に増加した($P < .01$)。IRI視点取得とIRI共感的関心の得点は、T1に比べT3で有意に増加した($P < .01$)。2日間のCSTワークショップ受講によって、日本のがん診療医の個入内共感が向上することが明らかとなった。

以上の成績はこの方面の研究の発展に重要な知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験はまず論文の研究目的、方法、実験成績などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容及びこれに関連した事項について種々質問を行ったが適切な回答を得た。

よって調査委員合議の結果、試験は合格と決定した。